〇３月　「自殺対策強化月間」・・・厚生労働省は，様々な悩みや問題を抱えた人々に届く「当事者本位」の施策：「いのちを守る自殺対策急プラン」を展開します。

十島村教育委員会だより　令和２年２月号

さわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

２月・・・来訪神サミット

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

　2月7日に秋田県男鹿市において、来訪神サミットが開催されました。これは、一昨年11月29日に「来訪神：仮面・仮装の神々」として、ユネスコ無形文化遺産に登録された記念に文化庁の補助を受けて開催されました。

　これに先立ちまして、鹿児島では「甑島のトシドン」「薩摩硫黄島のメンドン」「悪石島のボゼ」の3つの行事が集まって、シンポジュウムをしました。12月1日に行われましたシンポジュウムは、歴史資料館黎明館で開催しましたが、250人定員の講堂に立ち見が出るほどの盛況でした。このことからも、3つの行事への関心の高さがうかがえるものとなりました。

　そして、今回の男鹿市でのシンポジュウムです。10の行事がそろうのは、初めてのことでした。折しも今シーズン最高の寒波が来たということで、秋田空港では、大雪に歓迎されました。サミットは、男鹿市長で来訪神行事全国協議会長の菅原広二氏の挨拶から始まりました。「来訪神しゃべりとして、行事の保存・継承について語り、考えるシンポジュウムを行います。来訪神行事の多くは、少子高齢化などの影響を受けやすい、地方の小さな集落などで行われています。様々な問題を抱えながら行事を続けている皆様のお話を聞く機会は、地方の文化保存と継承に有意義なこととなりますことを確信しております。」と話されました。

　次に、ユネスコの政府間委員会に出席し、登録の瞬間に立ち会った文化庁の小林稔文化調査官による講演「来訪神：仮面・仮装の神々」がありました。

　その次は、「来訪神行事を未来へつなぐ」というテーマで、シンポジュウムがありました。各行事の会長さんから、いろいろな話があり、悪石島の有川会長も悪石島の盆踊りやボゼのことについて堂々と話しました。へんれい熱気にあふれた会場でした。

　最後に、来訪神行事の実演がありました。5つの団体が出演しましたが、どれも迫力があり、会場と一体となった発表が繰り広げられました。一か所で多くの行事の様子を見ることができることに感謝したり感動したりすることでした。5番目は地元男鹿のナマハゲの登場でした。男鹿の子どもたちは、ナマハゲを小さい時から近くに感じ、自分たちを見守り、家によいことをもたらす、怖いけど恐ろしくない存在として育ってきているとのことでした。

　夜になると、真山神社で開催されました「なまはげ紫灯（せど）まつり」を参観しました。雪山からナマハゲが列をつくって降りてくる様は、堂々として迫力があるものでした。伝統として受け継いでいくナマハゲと、観光としてのナマハゲを上手に使い分けて市の活性化につなげているということに、一つのヒントを得たような気がしました。

　たいへん密度の濃い、心に残る男鹿での一日でした。

おめでとうございます。

○　第 60 回新春書き初め会
　南日本新聞社賞　平島小　６年　新田真子

○　第 56 回南日本作文コンクール
　椋鳩十賞「学校賞」　小宝島小学校
　一席　諏訪之瀬島小　４年　濱田千明
　三席　宝島小　５年　尾家文都
　入選　小宝島小　２年　三浦和奏
　　　　小宝島小　５年　岩下和矢

○　第 67 回南九州美術展
　県知事賞
　　諏訪之瀬島小　６年　末吉麟太郎

子供のうた
（十二／二十六南日本新聞掲載）

船が来るまで・・・

打ちつける波の音
島中を吹き荒れる
強風と雨の音
船が欠航となり二週間
冷蔵庫も人も空腹と
なり
ただ待つのは
出航の合図の音
ついにしゃべり出す
島内放送
心落ち着く波の音
島中へ響く汽笛の音
島民みんなで話す喜びの音

（悪石島小六年
片野田　楽）

移動図書館事業～本を読んでみませんか。～

　十島村教育委員会では，毎年村予算で新刊図書を購入し，１～２か月ごとに各島を巡回させています。（セブンアイランド移動図書）本年度は，１１５冊購入しました。
　また，県立図書館から６６５冊の図書をお借りして各島を巡回させています。
　ぜひ，本を手にとって読んでみませんか。

セブンアイランド移動図書

親子での読書

シリーズ　新聞に投稿
（令和元年１２月２３日南日本新聞「若い目」掲載）
口之島小6年　前　和真

夢は変わってもいいんだよ

　ファミリー劇場のために島に来ていたみやまコンセールの方たちに、音楽について教えてもらい、インタビューもした。
　ぼくはトランペットの吹き方などを直接教えてもらった。教わった通りに息を遠くに通す感じで吹くと、とてもつかれた。でも、それが正解なのだそうだ。これからはもっとうまくできるようになりたい。
　一番印象に残っているのは、ユーフォニウムを演奏していた松尾さんが、「夢は変わってもいいんだよ」と話してくれたことだ。松尾さんは中学校時代は数学の先生になりたかったけど、高校になり、やっぱり音楽の先生がやりたくなったそうだ。その時その時で考えることが変わってもいいのだなということを、インタビューをしながら考えた。
　ぼくはまだ夢が決まっていないので、とても参考になった。今回の授業で、音楽のみ力が分かった。職業のことについても知ることができた。

シリーズ　新聞に投稿
（令和２年１月２０日南日本新聞「若い目」掲載）
宝島小6年　今里　陽巳

学ぶカフェ

　ぼくの母は近くに住む祖母の介護をし、祖父の食事を作っています。祖母の通っている小規模多機能ホームでは、「島カフェ」が月２回行われています。お茶が飲めると思って参加しました。
　ここではお茶を飲むばかりでなく、診療所の看護師さんが、地域の方に認知症や介護の仕方などを説明していました。参加者はお茶を飲み楽しそうな中にも、真剣な様子で聞いていました。
　ぼくは認知症について、ぼんやりとしか知りませんでした。看護師さんは、認知症の方に口で言うだけではなく、寄りそってついて行ってあげることが大事だと、分かりやすく教えてくださいました。
　また行きたいと思いました。この学ぶカフェで、認知症に関する正しい知識を身に付け、祖母や母の笑顔が見られるように自分にもできることをしたいです。

【宝島小・中学校からのメッセージ】
教頭　内村　健二

　宝島には，いくつかの伝統があるが，中でも「トカラ観音主」と「みかんたもーれ」は興味深い。「トカラ観音主」について，本島の老人会長に聞いてみたところ，『昔から宴の席でその時々の季節や出来事を即興で歌にして披露し，また，その歌に対して返歌し，それを繰り返す歌遊びである。』との説明であった。実際に歌を聴かせていただいたが，メロディーラインがシンプルで美しく，互いの言葉（詩）の掛け合いが絶妙であると感じた。この「トカラ観音主」の歌集も発刊されており，１番から１００番を超える歌が収められているとのことであった。島の先人たちから受け継ぎ，宴の席で即興性と掛け合いを楽しむ「トカラ観音主」。平安時代に流行した「梁塵秘抄」のような歴史的ドラマが続いているような気がしてならない。
　次に，「みかんたもーれ」について，山海留学の里親さんに聞いてみると，その意味は，「みかんをください」である。昔は，十五夜のとき，団子に加えてみかん，サツマイモ，落花生など収穫した作物をサンバラ（竹で編んだ器）にお供えし，来年の豊作を祈っていたそうである。その後，子どもたちは，「みかんたもーれ」と言って親戚の家を回り，「青，赤，白のどれがいい？」と親戚の人に尋ねられ，色を選んで食べ物をもらっていたそうである。ちなみに，青はみかん，赤はサツマイモ，白は団子ということであった。近年は，お菓子に代わったものの，収穫への感謝の気持ちは，今の子どもたちにも引き継がれている。
　これからも宝島の伝統について，島民の方々からお話を伺い，その魅力に触れていきたいと思う。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

　「十島はひとつ」のキャッチフレーズ通り，さまざまな村や学校の行事，刊行物からつながりを感じます。先輩方が築き上げた“ONE　TEAM,　TOSHIMA”をさらに盛り上げていきましょう。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
悪石島小学校　４年　久永　大地

島での頑張り

　僕は６年前の４歳の時に，悪石島に引っ越してきました。島に来た当初は少し緊張しましたが，今ではすっかり島の生活にも慣れました。最初は１人だった同級生も今では３人に増えて，４人で仲良く勉強をしています。
　僕は今，２つのことを頑張っています。１つは漢字の勉強です。４年生になってから６月に７級に合格したので，１１月には５級に挑戦しました。毎日夜遅くまで勉強した結果，見事に合格することができました。もう１つの頑張っていることは，一輪車の練習です。悪石島小学校は，チャレンジかごしま３年連続学校賞を取っているので，今年は４年連続学校賞を目指しています。そこで，４年生では一輪車の競技にも挑戦しようと一輪車の練習をしました。ところが４月に一輪車に乗った時には，こいだ瞬間に倒れてしまいました。その後，部活や休みの日にも体育館で練習した結果，１０月ごろには２０メートルくらいこげるようになりました。チャレンジかごしまの記録測定は終わりましたが，まだ，曲がったり障害物をよけたりするなど，様々な技ができないの，練習を続けてできるようになりたいです。
　頑張っていることの他にも悪石島では，様々な行事などがあり楽しいです。来年度は小学校の最高学年になるので，様々な行事を引き継いでいきたいです。